

評価基準	A:十分達成81～100% D:まだ不十分31～40%⇒改善方案が必要	B:概ね達成61～80% E:目標や方策の見直し30%以下	C:変化の兆し41～60%⇒経過を分析し、改善方案を検討
------	----------------------------------------	----------------------------------	------------------------------

評価項目	評価の 具体項目	中間評価			
		経過・達成状況	評価		
1 社会で生き抜く力を身につける	②① 「わがこ保え育かに応じて学べる・たのしい」と感じる	幼稚園	<p>・活動内容や流れが分かる視覚的な支援や繰り返しの活動を行うことで、より主体的・積極的に活動する様子が見られる。ただ、友達同士だけでは、遊びややりとりが広がりにくい面がある。</p> <p>・写真や絵を手がかりに、経験や思いを言語化して伝えようとする姿が増えてきているが、ことばや文章、手話表現が曖昧で相手に伝わらないことが多い。</p>	B	<p>・豊かな体験活動ができる内容を入れるとともに、友達同士のやりとりが生まれる声かけや場の設定を意図的に仕組む。</p> <p>・引き続き、口声模倣、拡充模倣、手話の模倣を大切にしたり関わりを徹底する。また、どのようなことばかけをするのかについて共通理解して実践する。</p>
		小学部	<p>・授業におけるめあての提示やめあてを意識した振り返りに取り組むことにより、児童が見通しを持って積極的に学習に取り組む姿が増えている。</p> <p>・学部会において、児童に関する情報共有はできているが、話型の活用、ICT機器の活用等、授業づくりに関する情報共有は十分とは言えない。</p>	B	<p>・学部会の中に授業づくりに関する研修・情報共有をする時間を設定する。(話型の活用、視覚的支援、教室掲示、板書の工夫など)</p>
		教育研究部	<p>・幼児児童の表出したい気持ちは育ってきているが、受容については課題が見られる。</p> <p>・各学級で実態に応じた環境整備が行われているが、学部内で共有が十分なされていない。</p> <p>・自立活動指導プログラムを活用し、日々の実践に生かすことができている。</p> <p>・参観ウィークや一人一研究授業、研修が有意義なものになっている。</p>	B	<p>・話型や絵カードなどを更に活用していくとともに、友達同士のやりとりをつなぐ教師の役割や支援を検討し実践していく。</p> <p>・各学級で表出・受容を促すための環境整備について共有する。</p> <p>・自立活動指導プログラムをケース研や後期の実践に活用し、後期の指導の充実を図る。</p> <p>・参観ウィークや一人一研究授業等のアドバイスを共有し、実践に生かしていく。</p>
2 こうなりたい自分・夢をもつ	④③ 取組自分のよさを知らず、夢動にのめりかかると感じる	幼稚園	<p>・絵本を通してのやりとりに慣れてきて、絵本の時間を楽しみにしている。絵本の時間に読んだ本を繰り返し読む姿が見られる。ただ、自由な時間に自分から絵本を開いたり読んでほしいと言ったりすることは少ない。</p> <p>・家族の仕事をきっかけにしているいろいろな職業があることを知ることができ、大きくなったらやりたいことの話が出るようになってきている。</p>	B	<p>・絵本の時間を大切に、様々なジャンルの絵本に興味を持つことができるように、絵本の読みかきかせて読む絵本の選定を工夫する。</p> <p>・自由あそびなどの時間に絵本を読む活動を取り入れたり、絵本に親しむ声かけをしたりする。</p> <p>・ごっこ遊びで様々な職業のイメージが広がるように、なりきりコスプレグッズやお医者さん等の道具類などを用意し、遊ぶきっかけとなる環境を整える。</p>
		小学部	<p>・失敗した原因や改善策を一緒に考えることで、苦手なことにも失敗をおそれずに前向きに取り組むことができつつある。</p> <p>・教員が児童のよさを認め、伝えることは行っているが、児童同士が友達のよさに気づき、伝える機会を十分に設定できていない。</p>	B	<p>・児童とじっくり対話する取組を継続する。</p> <p>・児童の作品や学習の足跡等を積極的に廊下に掲示する。</p> <p>・感想カードを準備し、児童に記入を促すとともに、教員も積極的に記入する。</p>
		支援部	<p>・活動の中で手話やジェスチャーを覚えて自分からする姿が見られ、語彙が広がっている。しかし、親子のやりとりの手話・音声などの広がりはまだ十分とは言えない。</p> <p>・活動や学習の中で、肯定的な言葉がけをしたり楽しさを共有したりすることで、積極的に伝える場面が増えてきている。</p>	B	<p>・ゲームや手遊びを手掛かりに、引き続き手話や音声を示したり、親子のやり取りの場面を増やしたりする。</p> <p>・引き続き、連絡帳・懇談などで、保護者や関係機関と連携を図り、幼児・児童・生徒が「伝える」気持ちが高まる楽しい活動や成功体験を増やしていく。</p>
3 あきらめない体力・気力	⑤ 取組りだす楽しさを知らず、進んでくれない	幼稚園	<p>・運動の時間でしたことを遊びの時間にも自分から進んでする姿が見られるとともに、経験の積み上げによって、体の動かし方が上手になってきている。</p>	A	<p>・バスケットゴールや的あて等を自由あそびの時間に設置して、教師も一緒に楽しみながら遊ぶ環境を設定する。</p> <p>・日常の遊びの中でも、楽しく体を動かす機会が増えるように、運動の時間に、自分の体や用具をコントロールする力を養うような運動を取り入れる。</p>
		小学部	<p>・休憩時間には、身体をしっかりと動かして遊ぶ姿が見られるとともに、ルールのある遊びにも楽しみながら取り組んでいる。</p> <p>・体力づくりの内容がダンス中心になっており、家庭でも取り組める運動を紹介できていない。</p>	B	<p>・遊びのパリエーションをさらに増やす。</p> <p>・動きのポイントや目標がわかるカードを準備し、家庭でも目標をもって取り組めるようにする。</p>
		健康安全教育部	<p>・幼稚園、小学部とも天気の良い日は外で元気に遊んでいる。</p> <p>・新しい遊びに慣れ、体を動かして遊ぶことを楽しみにしている。</p> <p>・発達段階に差があるため、メンバーが固定する傾向はあるが、思いやりを持って声かけをしたり、一緒に遊んだりする姿が見られるようになってきた。</p> <p>・家庭でも、意識的に運動に取り組むようになったという声がかかっている。</p>	B	<p>・幼稚園、小学部と一緒にできる遊びを検討する。</p> <p>・家庭でできる体操等を発信する。</p>
4 キャリア教育の推進	〇〇 保護者機関との連携を高める工夫	支援部	<p>・情報交換会の開催について、事前に電話、ファクシミリ、メール、Googleクラスルームなどで連絡を行ったり、情報交換会後にはGoogleクラスルームに資料を共有したりすることができた。</p> <p>・関係機関のきこえについての研修を掲示・配布したり、研修内容を回覧したりして情報提供を行っている。また、保護者手話学習会を定期的に行い、保護者も積極的に参加して親睦を深め、手話を習得したり情報交換をしたりしている。</p>	B	<p>・参加者が話し合いのテーマを事前にきき、有意義な情報交換会にしている。</p> <p>・引き続き、本校支援部、他校、医大、その他の関係機関と連携を取りながら、個々に応じた保育、教育、就学、進学などの情報提供したり相談に応じたりしていく。</p>
		キャリア教育部	<p>・きこえない・きこえにくくことの現状や就労促進セミナーの実践等について、定期的に校内掲示を更新して情報発信を行った。</p> <p>・夏休みに個別の教育支援計画についての研修を行い、職員間で目標や支援等について共通理解を図った。</p>	B	<p>・今後も校内掲示を随時更新する。また、キャリア教育だより等を活用して情報を発信し、保護者への理解啓発を図る。</p> <p>・個別の教育支援計画を支援会議やケース会議で活用する。</p> <p>・懇談で保護者と幼児・児童のキャリア発達について具体的に話をしたり、個別の教育支援計画の内容の確認をしたりする。</p>
5 推進業務改善	① 削減目標の達成	<p>(1)削減目標の達成</p> <p>・月2回「帰らぬDAY」を設定するとともに、衛生委員会での振り返りと状況共有、日々の声かけなどを重ねている。7、8、9月は、月45時間以上の時間外勤務者0名を達成している。</p> <p>(2)運営の見直し</p> <p>・ねらいを再確認しながら、効果的な取組になるよう活動内容を検討し、計画、実施されている。</p>	B	<p>・時間外勤務の削減に向けた取組を継続するとともに、個々の仕事に充てる時間を確保するための工夫をする。(会議時間の短縮・協議内容の焦点化)</p> <p>・引き続き各取組を円滑に進めるとともに、実施後の成果や課題を踏まえ、来年度に向けた検討を早い段階から計画的に進める。</p>	